

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法I						
担当教員	武藤 眞一						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜4	配当学年	3～4	単位数	4.0

授業の目的、概要 Objectives and content	英語教育に関して基本的な知識と考え方を身につけ、実際の英語の授業を行う上での技能の習得を図る。 中学校・高等学校の教材を基に教案を作成し、模擬授業やロールプレイも取り入れ実践的な指導方法を体得する。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 英語科教育法の履修にあたって</p> <p>第2回 英語科教員に求められる資質と能力</p> <p>第3回 日本における英語教育の歴史</p> <p>第4回 中学校学習指導要領のねらいと位置づけ</p> <p>第5回 高等学校学習指導要領のねらいと位置づけ</p> <p>第6回 英語科教授法の分類と特徴</p> <p>第7回 英語教育と国際理解教育</p> <p>第8回 コミュニケーション能力の育成</p> <p>第9回 テストの作成と評価の在り方</p> <p>第10回 学習指導案作成の基本</p> <p>第11回 中学校での授業の進め方</p> <p>第12回 高等学校での授業の進め方</p> <p>第13回 中学校の授業の実際</p> <p>第14回 高等学校の授業に実際</p> <p>第15回 前期のまとめと定期試験</p> <p>第16回 文字・発音・語彙の指導</p> <p>第17回 文法の指導</p> <p>第18回 Readingの指導</p> <p>第19回 Writingの指導</p> <p>第20回 Listeningの指導</p> <p>第21回 Speakingの指導</p> <p>第22回 中学校の学習指導案の作成と検討</p> <p>第23回 中学校の模擬授業1</p> <p>第24回 中学校の模擬授業2</p> <p>第25回 高等学校の学習指導案の作成と検討</p> <p>第26回 高等学校の模擬授業1</p> <p>第27回 高等学校の模擬授業2</p> <p>第28回 模擬授業の点検</p> <p>第29回 後期のまとめと定期試験</p> <p>第30回 教育実習に向けて</p>
参照URL Reference URL(s)	<a href="http://www.mext.go.jp/">http://www.mext.go.jp/</a> (文部科学省ホームページ)
授業方法 Class type	前期、後期とも前半は講義を中心に、後半は教案作成と模擬授業とその観察を中心に進める。 中学校・高等学校での英語科の授業の実際を知るため、先輩の教育実習参加者による模擬授業や、中学校・高等学校での授業参観を予定している(交通費等は自己負担)。
評価方法 Evaluation	教案作成と模擬授業30%、定期試験40%、平常点(提出物、意欲、態度、出席状況)30%
履修上の注意 Requirements and policy	英語の学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。
教科書 Textbook(s)	「新英語科教育の基礎と実践 授業力のさらなる向上を目指して」 JACET教育問題研究会編(三修社) ¥2600+税 文部科学省検定済教科書(中学校)「ONE WORLD English Course」1, 2, 3(教育出版) 各¥292 文部科学省検定済教科書(高等学校)「CROWN English Series I」(三省堂) ¥490+税

参考書 Reference(s)	「わかりやすい英語教育法 小中高での実践的指導」浅羽亮一ほか著 三修社 ¥2400+税 「すぐれた英語授業実践 よりよい授業づくりのために」樋口忠彦ほか著 大修館書店 ¥2200+税
備考 Remarks	その都度、補助資料を用意する。

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法II						
担当教員	作井 恵子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時間	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	英語教授法に関する理論と実践についてまず始めに、英語の基本学習活動（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）を理論的に考察し、指導理念についての理解を深めます。その後、学習指導案の書き方、教材研究、ALTとのチームティーチング、評価方法などについて学び、実践的な力を養います。このクラスでは、英語教育に関する知識を学生の皆さんが一方的に受けるのではなく、こういった知識を土台にしながら、各自がさらに効果的な指導方法を模索していけるようになることを目的としています。このため、プレゼンテーションや、クラスメートとのディスカッションなど積極的な態度で授業に参加することが重要視されます。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文法とは？ 学習者のための文法</li> <li>2. 文法とは？ 教員のための文法</li> <li>3. リーディング（第2言語習得からみたリーディング）</li> <li>4. リーディング（リーディング授業計画）</li> <li>5. リーディング（リーディング模擬授業）</li> <li>6. リーディング（評価）</li> <li>7. リスニング（第2言語習得からみたリスニング）</li> <li>8. リスニング（リスニング授業計画）</li> <li>9. リスニング（リスニング模擬授業）</li> <li>10. リスニング（評価）</li> <li>11. スピーキング（第2言語習得からみたスピーキング）</li> <li>12. スピーキング（スピーキング授業計画）</li> <li>13. スピーキング（スピーキング模擬授業）</li> <li>14. スピーキング（評価）</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	レポート（20%）（レッシンプラン） テスト（40%） 模擬授業（40%）
履修上の注意 Requirements and policy	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席重視。3回以上欠席の場合は単位取得が認められません。（遅刻は2回で1回欠席）</li> <li>2. 模擬授業の日に欠席するとグループみんなに迷惑がかかることとなりますから、必ず出席するように。もしどうしても出席できない場合は、その前週に模擬授業を（グループメンバー全員で）してもらいますから、事前に連絡をしてください。</li> <li>3. 遅れたレポートは受け取りません。期日までに必ず提出のこと。</li> </ol>
教科書 Textbook(s)	英語教員のための授業活動とその分析 大喜多喜夫 著（昭和堂）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法III						
担当教員	武藤 眞一						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	英語科教育法 I、II で身につけた理論や知識をもとに、教案の作成や模擬授業を行う。 英語の総合的な力を養うとともに、英語科教員としての実践的な力を養うことを目的とする。
授業計画 Syllabus	第1回 英語科指導の理論と技法の復習 第2回 中学校1年生「英語」指導案の作成と検討 第3回 中学校1年生「英語」模擬授業 第4回 中学校2年生「英語」指導案の作成と検討 第5回 中学校2年生「英語」模擬授業 第6回 高等学校「英語I」指導案の作成と検討 第7回 高等学校「英語I」模擬授業 第8回 英語科教育実習の実際（教材研究について） 第9回 英語科教育実習の実際（授業展開について） 第10回 英語科教育実習の実際（評価について） 第11回 英語科教育実習のまとめと今後の課題 第12回 英語科指導の総合的検討（教材研究の在り方） 第13回 英語科指導の総合的検討（授業展開の在り方） 第14回 英語科指導の総合的検討（評価について） 第15回 英語科教員になるにあたっての心構えと定期試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	各自の作成した教案について検討を加えたうえで模擬授業を行う。 それぞれの模擬授業について全員で検討・講評を行う。
評価方法 Evaluation	教案作成・模擬授業40%、定期試験30%、平常点（提出物、意欲、態度、出席状況）30%
履修上の注意 Requirements and policy	英語の学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。
教科書 Textbook(s)	その都度、補助資料を用意する。
参考書 Reference(s)	「改訂版 英語科教育実習ハンドブック」 米山朝二ほか著 大修館書店 ￥2,200+税
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	加藤 巡一						
学期	前期 前半	曜日・時限	金曜1	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ「介護体験を意義深いものとするために」</p> <p>中学校教諭の普通免許状を取得するためには、介護等体験を行うことが法律によって義務付けられた。介護等体験では、個人の尊厳や社会連帯の理念を深めることを目標としており、相手の人格を尊重し、対等の人として共生する生き方を身をもって体験することを願っている。この研究では、社会福祉に関する知識や理解、障害者や高齢者に対する介護、援助等のあり方、参加と連帯の精神等を実際の介護等体験に生かし、充実したものとするために各種の視点から探求する。特に、障害を持った生徒や施設利用者に対する配慮や注意、コミュニケーションのとり方、職員との接し方等、実際の取り組みに留意しながら学習を進める。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 制度の意義と内容</p> <p>第2回 介護体験で何を学ぶか</p> <p>第3回 社会福祉の意義「障害者の自立」</p> <p>第4回 特別支援学校における教育</p> <p>第5回 特別講師による講演 「介護の実践と留意点」</p> <p>第6回 高齢者の福祉と介護</p> <p>第7回 介護等体験の心得および諸注意</p> <p>学校及び施設への訪問と視察指導</p> <p>第15回 体験終了者の反省と課題発表</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義及び実習
評価方法 Evaluation	レポート（80％）によるが、授業への取り組みの姿勢（20％）を考慮する
履修上の注意 Requirements and policy	この科目を3年次に履修して事前指導を受けること。かつ、特別支援学校と社会福祉施設等での「介護等体験」実習に参加しないと、この科目の単位は認定しない
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法I						
担当教員	守野 美佐子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>家庭科教育の意義と独自性 本講義は、中学校、高等学校の家庭科教員をめざす者を対象とし、中学校「技術・家庭」および高等学校「家庭」についての基礎的理解をはかることを目的とする。女子教育から男女共修の教科へ大きく変化をとげてきた家庭科教育の歴史をたどりながら、現代社会における中学校、高等学校家庭科教育の意義を考える機会としたい。現行の学習指導要領の解説を通して、家庭科では何をめざし、何を教えるのか、目標や指導内容の概要について学ぶ。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 「生きる力」を考える</li> <li>2. 家庭科とは</li> <li>3. 家庭科のあゆみ</li> <li>4. 現代生活の生活課題 1) 家族関係</li> <li>5. 現代生活の生活課題 2) 家族と労働</li> <li>6. 現代生活の生活課題 3) 環境と消費</li> <li>7. 現代生活の生活課題 4) 情報化社会</li> <li>8. 現代生活の生活課題 5) 消費者問題</li> <li>9. 現代生活の生活課題 6) 社会保障とリスクマネジメント</li> <li>10. 現代生活の生活課題 7) 家庭生活の抱える問題</li> <li>11. 学習指導要領 1) 家庭科のカリキュラム</li> <li>12. 学習指導要領 2) 家庭科の学習</li> <li>13. 家庭科の授業づくりの視点 生活スキル</li> <li>14. 家庭科の授業づくりの視点 シティズンシップ</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	確認テストとレポート課題に受講姿勢を加味。
履修上の注意 Requirements and policy	しっかり自分で話を聞くようにしてください。発問には、自分の考えを確認するつもりで考えて受講するようにしてください。
教科書 Textbook(s)	家庭科教育法 I と II の講義共通で使用 家庭科教育法 中・高等学校の授業づくり 中間美砂子編著 (建帛社) ISBN4-7679-2084-1
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法II						
担当教員	守野 美佐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	家庭科の学習指導について 本講義は、家庭科教育法Iの理解を基礎に、学習指導の計画、実践について力を養うことを目的とする。3年間、1年間、1学期間等の学習指導の計画の大切さを知り、学習効果を高める計画のあり方について考えてもらいたい。また、学習指導案の立案の仕方を学びながら、同時に多様な学習形態や学習方法を学び、各自で学習内容に合い学習効果を高める授業の工夫を考える機会を持ってもらう。実際に学習指導案を作成し、模擬授業を行いながら、指導計画や授業技術について相互に評価し合い、実践力を養うことを目指す。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 家庭科教育で育成したい力とは</li> <li>2. 学習指導要領 1) 中学校技術・家庭科の目標</li> <li>3. 学習指導要領 2) 高等学校家庭科の目標</li> <li>4. 生活スキルの向上をめざす視点</li> <li>5. 安全・安心・健康なくらしとウェルビーイング</li> <li>6. 家庭科教育における実践的なシチズンシップ教育の可能性</li> <li>7. 生徒を取り巻く携帯・ネット環境の問題について</li> <li>8. 生活主体・責任ある消費者を育てる消費者教育と環境教育について</li> <li>9. 家計管理とクレジットについて</li> <li>10. 社会保障とリスクマネジメントについて</li> <li>11. 子どもの育ちと親役割の学習について</li> <li>12. 多様な学習形態</li> <li>13. 実験・実習を含む授業</li> <li>14. 家庭科の授業づくりと評価</li> <li>15. まとめと質疑、応答</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	平常点30% 小テスト20% 提出物50%
履修上の注意 Requirements and policy	自分自身の指導上のこだわり、工夫点、配慮点などを明確にしてください。文章、および授業を行う表現力も高める努力をしてください。
教科書 Textbook(s)	家庭科教育法IとIIの講義共通で使用 家庭科教育法 中・高等学校の授業づくり 中間美砂子編著 (建帛社)、ISBN4-7679-2084-1
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法III						
担当教員	守野 美佐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現実の生活課題と家庭科カリキュラム開発 本講義は、家庭科教育IとIIの基礎理解をふまえ、現代のさまざまな生活問題を解決する能力を育てることをめざす家庭科教育のあり方を考える機会とする。子どもを取り巻く生活環境の変化とその問題点について目をむけ、認識を深めること。従来の家庭科カリキュラムにとらわれず、子どもたちにとって必要な内容、力を育てる方法を探り、カリキュラムの変革をはかる柔軟で斬新な発想ができることを目標に、現代の生活と密着した学習内容と指導方法を検討する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 学習の動機付けとは</li> <li>2. 学習指導案とは</li> <li>3. 学習指導案の書き方</li> <li>4. 高等学校用「家庭総合」の教科書を見る</li> <li>5. 学習指導案 単元の目標を考える</li> <li>6. 学習指導案 単元の時間配当と本時の目標・評価</li> <li>7. 学習指導案 授業の展開を工夫する</li> <li>8. 学習指導案の作成 1) 衣生活領域の1時間</li> <li>9. 学習指導案の作成 2) 1)以外の1時間</li> <li>10. ホームプロジェクトと学校家庭クラブ</li> <li>11. 模擬授業 1) と評価</li> <li>12. 模擬授業 2) と評価</li> <li>13. 模擬授業 3) と評価</li> <li>14. 模擬授業 4) と評価</li> <li>15. 模擬授業 5) と評価</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	平常点20% 提出物50% 模擬授業30%
履修上の注意 Requirements and policy	自分自身が生活に目を向け、問題点の把握に全力を傾けること。いろいろな家庭事情の生徒を思いやれる先生になったつもりで生活問題の理解に務めてください。
教科書 Textbook(s)	家庭科教育法IIIとIVの講義共通で使用 家庭科への参加型アクション志向学習の導入 中間美砂子編著 (大修館書店)、ISBN4-469-27001-6
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法Ⅳ						
担当教員	守野 美佐子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>生徒の主体的学習支援の実践方法の検討</p> <p>本講義は、家庭科教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎理解と問題意識をふまえ、生徒自身の主体的学習の構築をめざす教師の支援をテーマとする。生徒が主体的に参加できる授業の工夫を主眼とし、①教材の工夫、②目的や教材に適した学習形態を検討する。また、学習者の支援者としての実践力を高めるため、模擬授業の実践を通し、生徒が主体的に学習できるための具体的支援方法についても検討する。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭科で育てたい力と家庭科の学習方法の特徴</li> <li>2. 参加型アクション志向学習法とは</li> <li>3. 家族・家庭生活領域の実践例（1）</li> <li>4. 家族・家庭生活領域の実践例（2）</li> <li>5. 教材研究 1回目</li> <li>6. 保育領域の実践例</li> <li>7. 高齢者・障害者福祉領域の実践例</li> <li>8. 教材研究 2回目</li> <li>9. 衣生活領域の実践例</li> <li>10. 教材研究 3回目</li> <li>11. 食生活領域の実践例</li> <li>12. 教材研究 4回目</li> <li>13. 住生活領域の実践例</li> <li>14. 教材研究 5回目</li> <li>15. まとめと質疑、応答</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	模擬授業と課題への取組みにその熱意を加味
履修上の注意 Requirements and policy	生徒の学習動機付け、学習意欲の高揚、学習効果による達成感・スキルアップが実感できるように、あくまでも、学習支援者という視点を持ち取り組んで欲しい。
教科書 Textbook(s)	家庭科教育ⅢとⅣの講義共通で使用 家庭科への参加型アクション志向学習の導入 中間美砂子編著（大修館書店）、ISBN4-469-27001-6
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校栄養指導論I						
担当教員	遠藤 牧子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現代の子どもたちをとり巻いている社会的背景や課題、問題を理解し、栄養教諭としての使命、役割、職務内容を認識する。また教育者として必要な知識・技能、実践する能力を習得する。 学校教育において、栄養教諭として食に関する専門的な知識や技能、教育者としての基礎的な技能を修得するとともに、演習を通して実践できる力をつける。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校栄養指導論 I について オリエンテーション</li> <li>2. 現代日本人の食生活 食に関する指導の意義</li> <li>3. 児童・生徒の食生活の現状と課題</li> <li>4. 食に関する指導に係る法令、諸制度</li> <li>5. 学校の組織と校務分掌</li> <li>6. 栄養教諭の職務内容</li> <li>7. 学校給食の管理① 意義と役割</li> <li>8. 学校給食の管理② 栄養管理、物資管理</li> <li>9. 学校給食の管理③ 郷土食、行事食、地場産物との関わり</li> <li>10. 学校給食の管理④ 衛生管理</li> <li>11. 食に関する指導に係る「全体計画」について</li> <li>12. 給食時間における食に関する指導について</li> <li>13. 給食時間における食に関する指導案作成、発表</li> <li>14. 教科における食に関する指導と目標との係わり</li> <li>15. 講義全体のまとめ</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と演習
評価方法 Evaluation	試験期間中試験と平常点 試験（40）、指導案（20）、小テスト（20）、提出物（20）
履修上の注意 Requirements and policy	予習・教科書や参考資料、新聞などの関連資料を読んでおく 学校給食や食に関する情報を普段から収集し、指導案作成に備える 復習・授業で学習したことを振り返り、疑問が生じれば何らかの方法で解決し、自分の意見・考えとして整理する
教科書 Textbook(s)	金田雅代編著「改訂栄養教諭論」建帛社
参考書 Reference(s)	文部科学省「食に関する指導の手引」（平成22年3月発行）
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校栄養指導論Ⅱ						
担当教員	遠藤 牧子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>栄養教諭に求められている使命や役割、職務内容などを理解したうえで、食に関する指導の具体的な内容や指導方法について、より理解を深め、演習や模擬授業を通して指導力を修得する。</p> <p>栄養教諭に求められている、食に関する指導を教科との関連を通して深める。また指導者として教育の現場で、実践できるように、演習や模擬授業をとおして修得する。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校栄養指導論Ⅱについて オリエンテーション</li> <li>2. 食に関する個別的な相談、指導への取り組み 学級担任、養護教諭との連携、および学校全体の取り組み</li> <li>3. 食に関する個別的な相談、指導、演習 肥満</li> <li>4. 食に関する個別的な相談、指導、演習 食物アレルギー、その他の疾病など</li> <li>5. 教科における食に関する指導 社会科、理科、生活科</li> <li>6. 教科における食に関する指導 家庭、技術・家庭科</li> <li>7. 教科における食に関する指導 体育、保健体育科、道徳</li> <li>8. 教科における食に関する指導 総合的な学習の時間</li> <li>9. 教科における食に関する指導 特別活動</li> <li>10. 学校・家庭・地域が連携した食に関する指導 給食だよりの作成</li> <li>11. 子どもたちが楽しく学ぶ学習指導案・教材の作成、評価の考え方</li> <li>12. 実践演習①学習指導案作成</li> <li>13. 実践演習②教材作成、学習指導案の発表、相互評価</li> <li>14. 実践演習③模擬授業、評価、反省</li> <li>15. 講義全体のまとめ</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と演習
評価方法 Evaluation	試験と平常点 試験（50） 小テスト（20） 提出物（30）
履修上の注意 Requirements and policy	<p>予習 教科書や参考資料を読んでおく。普段から新聞、本などから食に関する情報を広く収集しておく。</p> <p>復習 授業で学習したことを振り返り、疑問があれば何らな方法で解決し、自分の意見・考えとして整理する。</p>
教科書 Textbook(s)	金田雅代編著「改訂栄養教諭論」建帛社発行
参考書 Reference(s)	文部科学省「食に関する指導の手引」（平成22年3月発行）

備考 Remarks	教育実習のことも考慮して、近隣の小学校の研究授業に参加できればと考えている。
---------------	--

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育課程論						
担当教員	石井 英真						
学期	後期 前半	曜日・時限	火曜5	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>カリキュラムという視点から自己の学校像を問い直す カリキュラムや教育組織（学級編成、時間割、教室環境などカリキュラム・授業の実行過程を枠付ける諸条件）という視点から、自己の想定する学校像を見つめ直し、そのイメージをより豊かにする。 また、自己の思い描く学校のイメージを具体化するための、カリキュラム開発に関する基本的な知識と技能を習得する。具体的には、授業づくりとカリキュラム開発、カリキュラム評価、学習指導要領改訂の歴史などのトピックを扱う。 なお、本講義では、実際に学校で使用されている教科書や、特色ある実践事例（文書、ビデオ）を素材としながら、個人または小グループでの作業・議論を軸に授業を展開する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション： 授業概要の説明。自分が考える理想の学校の時間割を創る。 第2回 カリキュラムと授業： 日本とフィンランドの国語教科書を比較検討し、教科内容の検討が授業づくりの必要条件であることを確認する。 第3回 カリキュラム開発の原則： カリキュラム概念の変遷、および、カリキュラム開発を進める上で考慮すべきポイントについて解説する。 第4回 カリキュラムと評価： 国際学力調査の結果と調査問題を分析し、日本の子どもたちの学力の問題について考える。カリキュラム評価としての学力調査の意味を理解する。 第5回 教育組織とカリキュラム： 自由学校のビデオを見て、学校教育（カリキュラムや教育組織の構造）に対する自分たちの固定観念を問い直す。 第6回 カリキュラム改革の歴史（1）： グループ作業により、日本の学習指導要領改訂と教育実践の歴史を自分たちで年表にまとめてみる。 第7回 カリキュラム改革の歴史（2）： 欧米や日本のカリキュラム改革の特徴的な実践事例を紹介しながら、系統主義と経験主義の立場の違いについて解説する。 第8回 まとめ： 教育課程論で学んできた内容を振り返る。筆記試験を行う。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	筆記試験100% 意欲・知識・適性の観点で評価する
履修上の注意 Requirements and policy	授業で行うグループ活動や議論への積極的な参加を期待する。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	田中耕治・井ノ口淳三編『学力を育てる教育学』八千代出版
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育経営学						
担当教員	加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ「これからの学校に求められるもの」</p> <p>生徒が共に学び、共に成長できる学校教育の実践をめざし、学校教育目標、学校の組織・運営、教職員の協力・連携等から学校の経営の在り方について考察する。また、戦後の教育の歩みと主要課題を社会的変動の中で明らかにし、見え難い今後の教育の方向や課題を探り、少子高齢時代、生涯学習時代、高度情報時代の中での教育経営の在り方について探求する。また、教育経営の基礎となる教育関係法規について、教育行政や教育制度からの視点を加え学習を深める。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 教育経営の概説</p> <p>第2回 学校経営と教育目標</p> <p>第3回 学校の組織の構築（KJ法）</p> <p>第4回 発表と検討</p> <p>第5回 学校の組織と経営の実態</p> <p>第6回 戦前、戦後の教育制度</p> <p>第7回 義務教育制度</p> <p>第8回 現代の諸課題</p> <p>第9回 教育法規の基礎と概説</p> <p>第10回 学校の管理運営と法規</p> <p>第11回 学習指導要領と法規</p> <p>第12回 教職員のサービスと法規</p> <p>第13回 生徒指導と法規</p> <p>第14回 教育経営のまとめ</p> <p>第15回 質疑応答と試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義とグループ討議
評価方法 Evaluation	定期試験を主資料（80%）として、発表の成果（10%）や授業への取り組み姿勢（10%）を加味する履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三観点で行なう
履修上の注意 Requirements and policy	三分の一以上の欠席で履修を認めない
教科書 Textbook(s)	教育原理 教師養成研究会編（学芸図書）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「教育問題を教育学の概念で分析する」というテーマのもとで、第一の目的は学生が生徒として学習してきた内容を、教育学の基本的概念によって反省的に振り返ることである。第二の目的は教育学における理論のうちで保育者や保護者や教育者として役立つ部分を、学生が理解し活用できることである。</p> <p>具体的な概要としては、第一に学校教育制度の現状について歴史的な背景を含めて説明する。第二に学校化社会の成り立ちを業績原理とジェンダーの観点から考えさせる。第三にカウンセリングマインドを具体的スキルと思想史的背景から理解させる。第四に教育評価に関する類型論について比較検討させる。第五に教育そのものについて常識と定義の違いを説明する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング</p> <p>第2回 高校と大学の違い(1)：皆さんが意識したズレとその理由は？</p> <p>第3回 高校と大学の違い(2)：教育制度と進学率の歴史</p> <p>第4回 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？</p> <p>第5回 学校化社会の戦略(1)：帰属原理から業績原理へ</p> <p>第6回 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理のあいだには？</p> <p>第7回 学校化社会の戦略(3)：学校は塾と授業で勝負できるのか？</p> <p>第8回 カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンターを体験する</p> <p>第9回 カウンセリングマインド(2)：フロイトからロジャーズへの学説史</p> <p>第10回 教育評価を振り返る(1)：相対評価と絶対評価の違いは？</p> <p>第11回 教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括という三段階</p> <p>第12回 「教育」の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代学校教育</p> <p>第13回 「教育」の常識から定義へ(2)：「発達への介入」としての教育</p> <p>第14回 教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント</p> <p>第15回 レポートの返却と成績評価の還元</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	受講者が多いので前半は講義を中心に進めます。後半は聴き合いやディスカッションを取り入れます。何度かは映像資料も折り込みます。
評価方法 Evaluation	平常点40点（授業参加度、コメントカード、レポート発表などを総合する） 学期末レポート60点（教育原理の知識を踏まえて、現代日本の教育問題を論じる） なお履修カルテでは「意欲・知識・適性」という観点で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	教科書は授業でも使いますが各自でも読んでください。また必要な資料は配付して参考文献も紹介します。参加者が自分の物語をテキストに仕立ててほしいです。
教科書 Textbook(s)	上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』ちくま文庫、2008年。 ISBN:978-4-480-42460-0
参考書 Reference(s)	教科書は指定するが、必要な資料を配布し、参考文献も紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育指導論						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	教職指導の理論と実際を学ぶ。学級には様々な事情を持つ生徒が集まっていて、教師はそれぞれの生徒に応じた支援を行うことが求められている。本講義では、発達障害および行動問題を抱えた生徒への理解と、具体的な支援方法について知識を深め、実際に応用できるように簡単な実習を行う。また、生徒や保護者に対する面談に活かせるような面接技法を練習する機会を設ける。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒に自尊心を指導する。自己呈示の心得、ビデオ「自己」</li> <li>2. 知的障害児への認知訓練</li> <li>3. LD、ADHD児の理解と支援</li> <li>4. ASD (PDD)児の理解と支援</li> <li>5. 発達障害児を持つ家族の心理</li> <li>6. 社会的スキル訓練</li> <li>7. 心理療法 (精神分析の考え方①)</li> <li>8. 心理療法 (精神分析の考え方②)</li> <li>9. 心理査定 (動的家族画)</li> <li>10. 傾聴面接の実習①</li> <li>11. 傾聴面接の実際②</li> <li>12. データ収集とKJ法</li> <li>13. セルフコントロール</li> <li>14. 「いじめ」の対処法 テスト実施</li> <li>15. 拒食 答案返却と解説、再テスト</li> </ol>
参照URL Reference URL (s)	
授業方法 Class type	講義、グループ討論、実習
評価方法 Evaluation	平常点 (30%) と学期末の筆記試験 (70%) により評価を行う。第1回まとめのテストで不合格だった人は第2回テストで再チャレンジできる。上記15回の授業計画の記載が記述式の筆記試験のキーワードになるので、よく準備して試験に臨むこと。
履修上の注意 Requirements and policy	教職を志す学生にふさわしい態度で受講して下さい (私語厳禁、室内サングラス不可など常識をわきまえる)。
教科書 Textbook (s)	パワーポイントのプリントを出来るだけ配布します。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育心理学						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>学校教育の心理学 教育場面では、複雑化する現代社会を反映して、知的伝達のみならず、情緒面での成長を援助することが重視される。自らが精神的に健康であるばかりではなく、円滑な人間関係を築き上げ、他者により影響を与えることができる人間の形成が学校教育に期待される。この講義では、そのために必要な発達心理学や学習心理学の基礎事項をはじめ、子どもの意欲と学力、いじめ問題等の事柄について詳しく検討する。また、幼児から青年までの発達障害について、知能や人格特徴等の単一の要因によるのではなく、心身の相互作用によることを学習し、総合的に理解することを目指す。一例として、言葉の発達の遅れが知能面のみに起因するのではなく、構音器官の生理的な要因や聴覚の問題、そして二次的な心理的問題等を含んでいることがあげられる。そして通常学級においても、広範囲な子供達を対象にした心身両面にわたる特別支援教育のあり方をさぐる。視聴覚教材を併用する。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. わかる喜び学ぶ楽しさ</li> <li>2. エリクソンの生涯発達論</li> <li>3. ピアジェの認知発達</li> <li>4. 思春期・青年期</li> <li>5. 社会性の発達と「いじめ」</li> <li>6. 自己調整学習①</li> <li>7. 自己調整学習②、応用、記憶</li> <li>8. 自己調整学習③、学習理論</li> <li>9. 不適応、不登校</li> <li>10. 教室での発達障害</li> <li>11. 知能とはなにか 1</li> <li>12. 知能テスト</li> <li>13. 生徒の心理アセスメント</li> <li>14. 教師の心理、リーダーシップ、テスト実施</li> <li>15. 学級集団 答案返却と解説、再テスト</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、討論、視聴覚教材利用
評価方法 Evaluation	平常点（30%）と学期末の筆記試験（70%）により評価を行う。なお、履修カルテについては「意欲」「知識」「適性」の3つの観点を考慮する。 第1回まとめのテストで不合格だった人は第2回テストで再チャレンジできる。
履修上の注意 Requirements and policy	専門の勉強以外に教職科目の単位を取得することはそれほど容易ではないので、受けるのなら最後まであきらめないでしっかり受講して下さい。1年次から受講できますが、教員志望にふさわしい授業態度が望まれます。
教科書 Textbook(s)	パワーポイントのプリントを出来るだけ配布します。
参考書 Reference(s)	学校教育の心理学 著 北尾倫彦他（北大路書房）
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	竹田 美知						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0

授業の目的、概要 Objectives and content	これまでの教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、各々、実習候において授業やクラス運営などの実習を行う。実習に際しては、十分に教材研究をし、よく授業計画を練って、真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力してほしい。なお実習期間中は、本学教務部発行の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入し、日々の反省を翌日に生かすこと。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の事前指導（実習の心得）</li> <li>2. 教育実習の事前指導（実習の注意・指導）</li> <li>3. 実習校訪問（挨拶）</li> <li>4. 実習校訪問（打ち合わせ。諸注意）</li> <li>5. 実習校でのオリエンテーション（学校の概要・特色）</li> <li>6. 実習校担当教諭との打ち合わせ（指導方針の確認）</li> <li>7. 教育実習（観察・見学）</li> <li>8. 教育実習（教材研究・学習指導案の作成）</li> <li>9. 教育実習（学習指導・生徒指導）</li> <li>10. 教育実習（『教育実習記録』への記入に仕方）</li> <li>11. 研究授業</li> <li>12. 研究授業の反省</li> <li>13. 事後指導（実習終了後の反省やまとめ）</li> <li>14. 事後指導（教育実習記録の記入）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	実習校からの報告（80%）、及び「教育実習記録」（20%）に基づく。
履修上の注意 Requirements and policy	教育実習中の欠席、遅刻は絶対にしないこと
教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	田中 まき						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>目的：教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、中等教育の現場で行う教育実習</p> <p>概要：実習校において、実習校の教諭の指導助言に従い、授業やクラス運営などの実習を行う。          なお、実習期間中は、日々の反省を翌日に生かせるよう、所定の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入させ、実習の充実を図る。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>本授業の大半は実習校において行われるため、回ごとには明記できないが、以下のような計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等)</li> <li>・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等の実習体験)</li> <li>・「教育実習記録」に日々の記録をつける。</li> <li>・研究授業(教育実習の総仕上げの授業)</li> <li>・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける)</li> <li>・事後研究 (実習終了後、反省や感想をまとめた報告、実習内容の分析、反省を踏まえた模範的な学習指導案の作成)</li> </ul>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	実習						
評価方法 Evaluation	実習校からの報告、及び「教育実習記録」による。						
履修上の注意 Requirements and policy	教育実習中の欠席、遅刻は絶対にしないこと。 実習校の教諭の指導助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、充実した実習となるよう努力すること。						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	武藤 眞一						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>教職課程科目で学んだ知識や理論をもとに、実習校において担当教科の授業や学級運営などを実習する。実習校の指導教諭の指導・助言に従い、教材研究や授業計画を行うとともに、生徒指導や部活動指導などの校務も体験する。</p> <p>毎日「教育実習記録」に必要事項を記入し、指導教諭の点検を受け、指導・助言や反省を翌日以降の実習に生かす。</p>
授業計画 Syllabus	<p>授業内容のほとんどは実習校において行われ、概要は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習事前指導（実習の心得、諸注意等）</li> <li>・実習校訪問（実習校への挨拶、打合せ、心得、担当クラス・教材の確認等）</li> <li>・実習校でのオリエンテーション（実習校の概要・特色・指導方針の確認、指導教諭との打ち合わせ等）</li> <li>・教育実習（見学、観察、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導・部活動指導の体験、「教育実習記録」の記入等）</li> <li>・研究授業（教育実習の総仕上げの授業）</li> <li>・研究授業反省会（研究授業後の自己評価、実習校教員等からの指導・助言等）</li> <li>・事後指導（自己評価・反省・感想のまとめ、「教育実習記録」の提出等）</li> </ul>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	各実習校における実習
評価方法 Evaluation	各実習校からの「教育実習成績報告」および「教育実習記録」に基づく
履修上の注意 Requirements and policy	教育実習中は遅刻・欠席をしないことはもとより、実習校の指導教諭の指示に従い、責任、熱意、誠意を持ち、積極的な態度で臨むこと
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	竹田 美知						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	これまでの教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、各々、実習候において授業やクラス運営などの実習を行う。実習に際しては、十分に教材研究をし、よく授業計画を練って、真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力してほしい。なお実習期間中は、本学教務部発行の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入し、日々の反省を翌日に生かすこと。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の事前指導（実習の心得）</li> <li>2. 教育実習の事前指導（実習の注意・指導）</li> <li>3. 実習校訪問（挨拶）</li> <li>4. 実習校訪問（打ち合わせ。諸注意）</li> <li>5. 実習校でのオリエンテーション（学校の概要・特色）</li> <li>6. 実習校担当教諭との打ち合わせ（指導方針の確認）</li> <li>7. 教育実習（観察・見学）</li> <li>8. 教育実習（教材研究・学習指導案の作成）</li> <li>9. 教育実習（学習指導・生徒指導）</li> <li>10. 教育実習（『教育実習記録』への記入に仕方）</li> <li>11. 研究授業</li> <li>12. 研究授業の反省</li> <li>13. 事後指導（実習終了後の反省やまとめ）</li> <li>14. 事後指導（教育実習記録の記入）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	実習校からの報告（80%）、及び「教育実習記録」（20%）に基づく。
履修上の注意 Requirements and policy	教育実習中の欠席、遅刻は絶対にしないこと
教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	田中 まき						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>目的：教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、中等教育の現場で行う教育実習</p> <p>概要：実習校において、実習校の教諭の指導助言に従い、授業やクラス運営などの実習を行う。          なお、実習期間中は、日々の反省を翌日に生かせるよう、所定の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入させ、実習の充実を図る。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>本授業の大半は実習校において行われるため、回ごとには明記できないが、以下のような計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等)</li> <li>・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等の実習体験)</li> <li>・「教育実習記録」に日々の記録をつける。</li> <li>・研究授業(教育実習の総仕上げの授業)</li> <li>・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける)</li> <li>・事後研究 (実習終了後、反省や感想をまとめた報告、実習内容の分析、反省を踏まえた模範的な学習指導案の作成)</li> </ul>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	実習						
評価方法 Evaluation	実習校からの報告、及び「教育実習記録」による。						
履修上の注意 Requirements and policy	教育実習中の欠席、遅刻は絶対にしないこと。 実習校の教諭の指導助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、充実した実習となるよう努力すること。						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	武藤 眞一						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>教職課程科目で学んだ知識や理論をもとに、実習校において担当教科の授業や学級運営などを実習する。実習校の指導教諭の指導・助言に従い、教材研究や授業計画を行うとともに、生徒指導や部活動指導などの校務も体験する。</p> <p>毎日「教育実習記録」に必要事項を記入し、指導教諭の点検を受け、指導・助言や反省を翌日以降の実習に生かす。</p>
授業計画 Syllabus	<p>授業内容のほとんどは実習校において行われ、概要は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習事前指導（実習の心得、諸注意等）</li> <li>・実習校訪問（実習校への挨拶、打合せ、心得、担当クラス・教材の確認等）</li> <li>・実習校でのオリエンテーション（実習校の概要・特色・指導方針の確認、指導教諭との打ち合わせ等）</li> <li>・教育実習（見学、観察、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導・部活動指導の体験、「教育実習記録」の記入等）</li> <li>・研究授業（教育実習の総仕上げの授業）</li> <li>・研究授業反省会（研究授業後の自己評価、実習校教員等からの指導・助言等）</li> <li>・事後指導（自己評価・反省・感想のまとめ、「教育実習記録」の提出等）</li> </ul>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	各実習校における実習
評価方法 Evaluation	各実習校からの「教育実習成績報告」および「教育実習記録」に基づく
履修上の注意 Requirements and policy	教育実習中は遅刻・欠席をしないことはもとより、実習校の指導教諭の指示に従い、責任、熱意、誠意を持ち、積極的な態度で臨むこと
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	竹田 美知・加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	教育実習に参加するにあたって、実習校で何をどのように学んでいきたいのか、自ら課題を課し、問題意識を持って学んでいく。教育の理論と実践を結びつけるをいかに図るか、そこからさらに新たな問題を自ら発見する。単なる知識や教育技術を学ぶだけではなく、その土地に根ざし、その人々に支えられている地域の教育力を理解する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の意義と課題</li> <li>2. 教育実習の日々</li> <li>3. 教育実習生の授業の実際</li> <li>4. 教科指導</li> <li>5. 生徒指導</li> <li>6. 教師の在り方と実践</li> <li>7. 先輩へのインタビュー</li> <li>8. 授業展開の実際Ⅰ</li> <li>9. 授業展開の実際Ⅱ</li> <li>10. 授業展開の実際Ⅲ</li> <li>11. 教育実習を終えて</li> <li>12. 教育実習の自己評価</li> <li>13. 学習指導案の書き方</li> <li>14. 教育活動の諸課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価
履修上の注意 Requirements and policy	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また遅刻3回で欠席1回とする。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	教育実習の研究ノート参照

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	田中 まき・加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	目的：教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深める。 概要：これまで教職課程の種々の科目で学んできた内容を振り返り、自ら課題を設定し、問題意識を持って、実り豊かな教育実習とするために、実習の準備をし、さらに、実習後には、その反省や自己分析、また教育の現場における諸問題の研究を深める。
授業計画 Syllabus	第 1 回 教育実習の意義と課題 第 2 回 教育実習の日々 第 3 回 生徒指導 第 4 回 教育実習生の授業（国語科における授業の在り方） 第 5 回 教科指導（国語科における教科指導） 第 6 回 先輩に聞く 第 7 回 授業展開の実際（国語における授業展開の実際） 第 8 回 教師の在り方と実践 第 9 回 教育実習を終えて 第 10 回 教育活動の諸課題  第 1, 2, 3, 6, 8, 10回は加藤先生、第 4, 5, 7, 9回は田中が担当する。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と演習
評価方法 Evaluation	「教育実習の研究ノート」のレポート 90% 本授業への取り組み 10%
履修上の注意 Requirements and policy	教育実習前の授業では、これまで学んできた内容を振り返って、実習の準備をし、実習後には、自らの実習の反省や自己評価をするなど、毎回、教育実習についての重要な内容が含まれているので、欠席をしないこと。
教科書 Textbook(s)	特になし。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	武藤 眞一・加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。</p> <p>本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。</p> <p>実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第 1 回 教育実習の意義と課題</p> <p>第 2 回 教育実習の日々</p> <p>第 3 回 生徒指導</p> <p>第 4 回 教育実習生の授業（英語科における授業の在り方）</p> <p>第 5 回 教科指導（英語科における教科指導）</p> <p>第 6 回 先輩に聞く</p> <p>第 7 回 授業展開の実際（英語における授業展開の実際）</p> <p>第 8 回 教師の在り方と実践</p> <p>第 9 回 教育実習を終えて</p> <p>第 10回 教育活動の諸課題</p> <p>第 1, 2, 3, 6, 8, 10回は加藤先生、第 4, 5, 7, 9回は武藤が担当する。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義と演習						
評価方法 Evaluation	「教育実習の研究ノート」及び課題の提出とその内容50%、授業態度（意欲、態度、出席状況）50%						
履修上の注意 Requirements and policy	教育実習と同等に位置づけ、遅刻・欠席がないことはもちろん、積極的な態度で授業に臨むこと						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育方法論						
担当教員	木村 裕						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】 本講義では、受講生一人ひとりが将来教員になったときに、自分なりの「よい授業」を構想・計画し、実践し、改善することができるようになるための基礎的な知識や技能を身につけることをめざす。そのために、「授業づくりに必要な基本的な知識と技術の獲得」「これまでに実践されてきた授業の検討」「学習指導案の作成と受講生同士での検討を通じた改善」を行う。</p> <p>【概要】 まず、教育目標と教材の関係、教師の指導技術、情報機器の活用方法、教育評価など、授業づくりに必要な基本的な知識と技術を学ぶ。次に、実践事例の分析を行い、先に学んだ事項が実践にどのように具体化されているのかを検討する。以上をふまえて最後に、各自が学習指導案を作成し、受講生同士の相互検討を通してよりよいものへと改善していく。</p> <p>【到達目標】 * 授業づくりに必要な基本的な知識と技術を身につけることができる。 * 身につけた知識と技術を使って、他者の実践を検討することができる。 * 授業づくりに必要な基本的な知識と技術に基づいて、学習指導案を作成することができる。 * 他者と議論をし、自身の学習指導案を改善することができる。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要の説明／「よい授業」とはどのような授業だと考えるか 第2回 授業の構成要素（1）：教育目標・教材・教授行為・学習形態の概要と、実践に生かす際の留意点 第3回 授業の構成要素（2）：教育評価の役割と評価方法、評価を行う際の留意点 第4回 教育実践事例の検討（1）：子どもをひきつける教材のあり方と活用方法 第5回 教育実践事例の検討（2）：討論を取り入れた授業のあり方 第6回 教育実践事例の検討（3）：ワークショップ型の授業のあり方 第7回 教育実践事例の検討（4）：探究型の授業のあり方（情報機器の活用方法を含む） 第8回 特別支援教育：特別な教育的ニーズを持つ子どものための授業のあり方 第9回 学習環境の工夫：効果的な学習を実現するための環境づくり 第10回 日本の授業スタイル再考：日本の学校教育における授業スタイルの特徴 第11回 学習指導案づくり（1）：学習指導案をつくる際の留意点／学習指導案の作成 第12回 学習指導案づくり（2）：学習指導案の作成（前回の続き） 第13回 学習指導案検討会：互いの学習指導案の検討と改善 第14回 子どもとの向き合い方：教師として子どもと向き合い、教育実践を進める際の留意点 第15回 まとめと講義全体のふりかえり：講義内容の復習とポイントの確認</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義（ただし、グループ活動などの演習的要素を含む）
評価方法 Evaluation	<p>* 講義中に提出してもらったワークシートや小レポートなどによる平常点50%、最終レポート50%とし、総合的に判断する。 * 5回以上欠席した場合には単位認定は行わない。 * 「意欲」については、講義への参加の様子やワークシートなどの完成度を中心に評価する。 * 「知識」については、小レポートや最終レポートの完成度を中心に評価する。 * 「適性」については、講義への参加の様子や提出物の完成度を中心に、総合的に評価する。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>* グループ活動や発表など、受講生同士の交流を促すような活動を取り入れながら講義を進めるため、積極的な参加を求める。 * 講義内容について配布資料などで復習するとともに、講義中に紹介する参考書や資料などをもとにさらなる追究をしてほしい。 * 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって少し変更する可能性があることを了承されたい。</p>
教科書 Textbook(s)	使用しない。講義中に適宜資料を配布する。

参考書 Reference(s)	* 『よくわかる授業論』 田中耕治編、ミネルヴァ書房、ISBN:4623043320 * 『時代を拓いた教師たち－戦後教育実践からのメッセージ』 田中耕治編著、日本標準、ISBN:4820802569 * 『時代を拓いた教師たちⅡ－実践から教育を問い直す』 田中耕治編著、日本標準、ISBN:4820804227 * 『教育方法学』 佐藤学、岩波書店、ISBN:4000260057 その他の参考書や参考資料については、講義中に適宜紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職総合演習						
担当教員	加藤 巡一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ「子ども達の豊かな将来のために」</p> <p>これからの時代を担う子供たちの教育に携わろうとする者は、世界的に行き詰まりをみせる環境問題やわが国の抱える深刻な少子・高齢化問題等について理解を深め、子供たちに様々なヒントを提供し、自他の生命と人権の尊重を軸にして適切に指導することができるような資質能力を育てなければいけない。教職を目指す学生はこのことを踏まえつつ、諸課題のうちいくつか選択した課題（例えば地球温暖化、食料、エネルギー、民族、宗教、家庭のあり方、福祉、医療、食文化、マスメディア、ストレス等）についてグループを構成し、各種資料や、関係施設の訪問等を活用して情報を集め、ディスカッションやディベートを通じて互いの考えや意見を出し合い、考察を深めていく。最後にまとめたものをグループまたは個人ごとに発表する。その過程を大切に、現実の社会の状況や課題を適切に理解するとともに、児童・生徒に今何をすべきかを提案し、その指導方法を体得する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 教職総合演習の概論</p> <p>第2回 各論（人権に関わる諸課題）</p> <p>第3回 関心のある課題別でのグループ分け</p> <p>第4回 ディベートの目的および方法</p> <p>第5回 ディベート（1）</p> <p>第6回 ディベート（2）</p> <p>第7回 各論（世界の水をめぐる課題）</p> <p>第8回 課題別グループ研究</p> <p>第9回 研究発表と質疑応答（1）</p> <p>第10回 研究発表と質疑応答（2）</p> <p>第11回 研究発表と質疑応答（3）</p> <p>第12回 各論（これからの生き方）</p> <p>第13回 研究発表と質疑応答（4）</p> <p>第14回 研究発表と質疑応答（5）</p> <p>第15回 教職総合演習のまとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、研究発表、ディベート等
評価方法 Evaluation	課題発表（70%）、レポート等（20%）、授業への取り組みの姿勢（10%）による
履修上の注意 Requirements and policy	三分の一以上の欠席で履修を認めない
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職総合演習						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「現代日本で多文化教育を構想する」というテーマのもとで、第一の目的は新しい社会統合の方法として提案された多文化主義と、多文化教育について理解することである。第二の目的は多様なメディアに触れながら、文化をめぐる諸問題を多文化教育の視点で分析することである。</p> <p>具体的な概要としては、第一に現代日本が多文化社会である事実を出発点に、カナダやオーストラリアなどの多文化主義と多文化教育について解説する。第二に国内にみられる文化的差異として、地域・民族・国籍・障害などを具体的なテーマとして取り上げて議論する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング</p> <p>第2回 「多文化」ってどういうこと？：身近な違いに敏感になろう</p> <p>第3回 多文化主義が生まれた背景：世界各地にみる歴史と現状</p> <p>第4回 多文化教育の現実と理念：「同化＝平等」と「異化＝差異」のバランス</p> <p>第5回 地域や民族による多様性(1)：先住民アイヌが訴える同化と異化</p> <p>第6回 地域や民族による多様性(2)：ウィルタ民族の歴史と文化に触れる</p> <p>第7回 地域や民族による多様性(3)：映像と音楽で振り返る沖縄県の戦後史</p> <p>第8回 地域や民族による多様性(4)：ウチナンチュからみる「国語」と「社会」</p> <p>第9回 国籍による多様性(1)：在日コリアンの歌う「清河への道」を聴く</p> <p>第10回 国籍による多様性(2)：同化のゴールとしての「帰化」の現状</p> <p>第11回 国籍による多様性(3)：日系人労働者にかかわる学校教育の問題点</p> <p>第12回 国籍による多様性(4)：「在日」ゲストスピーカーを迎えて語り合う</p> <p>第13回 障害にかかわる多様性(1)：「スロウイズビューティフル」は本当か？</p> <p>第14回 障害にかかわる多様性(2)：手話による「ろう文化宣言」と社会統合</p> <p>第15回 レポートの発表：学生による発表と教員によるコメント</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	初めは文献の購読と教員の講義を基本にしますが、その後は多様な教材を取り入れながら、学生による発表やディスカッションに移ります。
評価方法 Evaluation	平常点50点（授業参加度、コメントカード、授業への貢献度、グループ発表など） 学期末レポート50点（多文化教育の基礎知識を踏まえて文化の考察をテーマとする）
履修上の注意 Requirements and policy	教科書は指定せずに必要な資料は配付して参考文献を紹介します。参加者が自分の物語をテキストに仕立ててほしいですね。
教科書 Textbook(s)	とくに指定せずに授業で資料を配布する。
参考書 Reference(s)	とくに指定せずに授業で紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職入門						
担当教員	石井 英真						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1~3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>教師の仕事の奥深さにふれる 本講義では、戦後日本を代表する実践家の教師としての歩みにふれることで、教師という仕事の難しさやおもしろさについて知ることを目的とする。教科書や参考書で取り上げられている実践家（無着成恭、大村はま、斎藤喜博、仲本正夫、金森俊朗、加藤公明、小寺隆幸など）について、実践の特徴や教師としての成長のプロセスなどについてグループで調査し、その成果を授業で報告する。各実践家の授業ビデオを視聴して実践のイメージをつかんだり、実践者間の立場の違いなどについて議論したりする機会も設けることで、教師という仕事への理解を深めていく。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業概要の説明。思い出に残っている先生の特徴を切り口に、理想の教師像について議論する。  第2回 教師という仕事（1） : 教師に必要な人間的資質について考える。  第3回 教師という仕事（2） : 学力をつけることの意味を考える。  第4回 テキスト報告（1） : グループごとに選択した実践家に関する報告を行う。  第5回 テキスト報告（2） : グループごとに選択した実践家に関する報告を行う。  第6回 テキスト報告（3） : グループごとに選択した実践家に関する報告を行う。  第7回 テキスト報告（4） : グループごとに選択した実践家に関する報告を行う。  第8回 テキスト報告（5） : グループごとに選択した実践家に関する報告を行う。  第9回 テキスト報告（6） : グループごとに選択した実践家に関する報告を行う。  第10回 テキスト報告（7） : グループごとに選択した実践家に関する報告を行う。  第11回 テキスト報告（8） : グループごとに選択した実践家に関する報告を行う。  第12回 教師としての成長 : テキスト報告をふまえて、教師に必要な資質とは何か、教師として成長するとはどういうことかを議論する。  第13回 現代社会の中の教師 : 学校や教師をめぐる社会的条件の変化と現状について考える。  第14回 諸外国の教師 : アメリカやフィンランドなどにおける教師の仕事や地位について学ぶ。  第15回 理想の教師像を問う : 授業内容をふまえながら、改めて理想の教師像について議論する。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	授業での報告100%						
履修上の注意 Requirements and policy	授業で行うグループ活動や討論への積極的な参加を期待する。						
教科書 Textbook(s)	教科書のほかに適宜プリントも配布する。 田中耕治『時代を拓いた教師たち』日本標準						
参考書 Reference(s)	田中耕治・井ノ口淳三『学力を育てる教育学』八千代出版						
備考 Remarks							

科目区分	教職課程科目																																				
科目名	教師論																																				
担当教員	岡本 武利																																				
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1~4	単位数	2.0																														
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「子ども、保護者、地域から信頼される教師像を追究する」をテーマとする。          先ず、著名な教育者の教育観を調べたり、現代教師の実態を把握しながら、教師改革の視点を探る。また、教師としての好ましい資質を、多方面から捉え、信頼される教師を目指す意欲を高める。          さらに、理論と現実の融和を図り、確固たる教育観を身に付ける。</p>																																				
授業計画 Syllabus	<table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>講義内容・専門職としての教師像</td> </tr> <tr> <td>第2回：教育の動向</td> <td>教育の変遷を知り、今、必要な教育内容の把握</td> </tr> <tr> <td>第3回：教師の実態</td> <td>研修、サービスなどから、現代教師の実態把握</td> </tr> <tr> <td>第4回：子どもの実態</td> <td>体験不足・孤独症候群等の実態と子ども本来の力</td> </tr> <tr> <td>第5回：子どもに付けたい力</td> <td>レインボウプランとしての七つの力</td> </tr> <tr> <td>第6回：地域の要望</td> <td>一般市民の教師への要望</td> </tr> <tr> <td>第7回：学習指導</td> <td>子どもが課題解決を図る授業</td> </tr> <tr> <td>第8回：生徒指導</td> <td>善悪を体で感じ取る生徒指導</td> </tr> <tr> <td>第9回：教科外指導</td> <td>防災教育・食育教育</td> </tr> <tr> <td>第10回：各校種の実態</td> <td>各校種の実態把握</td> </tr> <tr> <td>第11回：過去の教育者に学ぶ</td> <td>著名な教育者の教育観</td> </tr> <tr> <td>第12回：教師の資質</td> <td>教師にふさわしい資質</td> </tr> <tr> <td>第13回：教育観（1）</td> <td>教育観を持つ</td> </tr> <tr> <td>第14回：教育観（2）</td> <td>教育観の交換会</td> </tr> <tr> <td>第15回：教育観（3）</td> <td>教育観の再考</td> </tr> </table>							第1回：オリエンテーション	講義内容・専門職としての教師像	第2回：教育の動向	教育の変遷を知り、今、必要な教育内容の把握	第3回：教師の実態	研修、サービスなどから、現代教師の実態把握	第4回：子どもの実態	体験不足・孤独症候群等の実態と子ども本来の力	第5回：子どもに付けたい力	レインボウプランとしての七つの力	第6回：地域の要望	一般市民の教師への要望	第7回：学習指導	子どもが課題解決を図る授業	第8回：生徒指導	善悪を体で感じ取る生徒指導	第9回：教科外指導	防災教育・食育教育	第10回：各校種の実態	各校種の実態把握	第11回：過去の教育者に学ぶ	著名な教育者の教育観	第12回：教師の資質	教師にふさわしい資質	第13回：教育観（1）	教育観を持つ	第14回：教育観（2）	教育観の交換会	第15回：教育観（3）	教育観の再考
第1回：オリエンテーション	講義内容・専門職としての教師像																																				
第2回：教育の動向	教育の変遷を知り、今、必要な教育内容の把握																																				
第3回：教師の実態	研修、サービスなどから、現代教師の実態把握																																				
第4回：子どもの実態	体験不足・孤独症候群等の実態と子ども本来の力																																				
第5回：子どもに付けたい力	レインボウプランとしての七つの力																																				
第6回：地域の要望	一般市民の教師への要望																																				
第7回：学習指導	子どもが課題解決を図る授業																																				
第8回：生徒指導	善悪を体で感じ取る生徒指導																																				
第9回：教科外指導	防災教育・食育教育																																				
第10回：各校種の実態	各校種の実態把握																																				
第11回：過去の教育者に学ぶ	著名な教育者の教育観																																				
第12回：教師の資質	教師にふさわしい資質																																				
第13回：教育観（1）	教育観を持つ																																				
第14回：教育観（2）	教育観の交換会																																				
第15回：教育観（3）	教育観の再考																																				
参照URL Reference URL(s)																																					
授業方法 Class type	講義・演習																																				
評価方法 Evaluation	平常点（授業への参加度・小テスト） 40% 演習点（提出物・資料整理） 30% レポート点（信頼される教師像を描けているか） 30% 意欲（参加型の授業に応えて、積極的に発言ができる） 知識（教職に関する一般的な知識に加え、教育用語が理解できる） 適性（あいさつ文作成・教育実習のビデオ視聴に興味・関心を持つ）																																				
履修上の注意 Requirements and policy	子どもたちの範になる教師の資質を身に付け、即戦力としての力を付けることを目指す。																																				
教科書 Textbook(s)																																					
参考書 Reference(s)	中学校学習指導要領解説 総則編 教育六法																																				
備考 Remarks																																					

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法I						
担当教員	田中 まき						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	3～4	単位数	4.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>目的：国語科教育の意義、目標、方法等の理論の習得と指導法の実践演習</p> <p>概要：国語科教育の意義、目標、方法等について、講義する。 さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。 また、国語科教育のために、受講生の国語力を向上させるべく、小テストを重ねる。</p>
授業計画 Syllabus	<p>【前期】</p> <p>第1回 国語科教育の意義についての講義</p> <p>第2回 国語科教育の目標についての講義</p> <p>第3回 国語科に関する教育法規についての講義</p> <p>第4回 学習指導要領についての講義</p> <p>第5回 コミュニケーション・プレゼンテーション力の養成の演習1</p> <p>第6回 コミュニケーション・プレゼンテーション力の養成の演習2</p> <p>第7回 教材研究と授業の展開の立案についての講義</p> <p>第8回 教材研究と授業の展開の立案についての演習</p> <p>第9回 学習指導案作成の講義</p> <p>第10回 学習指導案作成の演習1</p> <p>第11回 学習指導案作成の演習2</p> <p>第12回 授業展開の研究1</p> <p>第13回 授業展開の研究2</p> <p>第14回 国語力養成の演習1</p> <p>第15回 国語力養成の演習2</p> <p>【後期】</p> <p>第1回 国語科授業のあり方についての講義</p> <p>第2回 評論教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第3回 評論教材の模擬授業1</p> <p>第4回 評論教材の模擬授業2</p> <p>第5回 小説教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第6回 小説教材の模擬授業1</p> <p>第7回 小説教材の模擬授業2</p> <p>第8回 詩歌教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第9回 詩歌教材の模擬授業1</p> <p>第10回 詩歌教材の模擬授業2</p> <p>第11回 古文教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第12回 古文教材の模擬授業1</p> <p>第13回 古文教材の模擬授業2</p> <p>第14回 表現指導のあり方についての講義</p> <p>第15回 国語科教育についてのまとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と演習
評価方法 Evaluation	演習内容（学習指導案作成、模擬授業）60% 小テスト（国語力養成のためのテスト）40%
履修上の注意 Requirements and policy	教員を目指すものとして自覚を持ち、遅刻、欠席は厳に慎むこと。 毎回のよう、小テストをするので、その意味でも、遅刻、欠席をしないこと。

教科書 Textbook (s)	国語科教育実践・研究必携 全国大学国語教育学会 編 学芸図書 ISBN978-4-7616-0415-8 C3037
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法Ⅱ						
担当教員	高田 実千代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	中高国語教員としての基礎知識の養成と教授法の研究 主眼となるテーマは、生徒が動く授業作りを中心とした教授法の探究。「国語科教育法Ⅰ」の内容を踏まえた上で、領域ごとに生徒の実状と課題を探り、課題の実践的解決法としての教授法を考える。視聴覚・情報機器の活用および講義一辺倒にならない作業を取り入れるなど、視点を変えた「生徒が動く授業作り」を中心に考えて、自らも体験していく。さらに、国語教員として必要な知識の確認も行う。
授業計画 Syllabus	<p>第1回：《授業のオリエンテーション》 授業の目的及び今後の演習内容を説明。言葉の時間感覚を見直し、新指導要領が目指すもの考える。次に扱う「読書指導」の導入。</p> <p>第2回：《KJ法と生徒を動かす授業―「読書指導」課題探求》 KJ法というワークショップの紹介と、それを使って「読書指導」を考える。</p> <p>第3回：《生徒を動かす授業―「読書指導」実践と、「書く」授業 課題探求》 「読書指導」の振り返り。「書く」授業では、作文の基礎をチェックした後、「書く」楽しみを育てる授業のアイデアを出し合い、授業作りをする。</p> <p>第4回：《生徒を動かす授業―「書く」授業 実践》 前回の授業を受けて、授業実践。</p> <p>第5回：《生徒を動かす授業―「古典」の授業 課題探求》 KJ法を使って、中学の古典の授業の課題を考える。</p> <p>第6回：《生徒を動かす授業―「古典」の授業 実践》 前回の授業の続き。群読などの手法を授業に取り入れるなど、実際に体験しつつ、古典の授業展開を考える。</p> <p>第7回：《生徒を動かす授業―「話す・聞く」の授業 課題探求》 自分たちの「聞く」力を、実際の入試問題から試す。さらに、「話す」「聞く」の両方を必要とする「話し合い」の種類と方法を知る。</p> <p>第8回：《生徒を動かす授業―「話す・聞く」の授業 体験》 前回の授業の続き。実際に討論やディベートを経験する。</p> <p>第9回：《生徒を動かす授業―「話す・聞く」の授業 実践》 前回の授業の続き。文学教材にディベートを取り入れることの意味（長所・短所）を考える。</p> <p>第10回：《生徒を動かす授業―「言葉」の授業 課題探求》 生徒たちが苦手な文法、そして語彙。楽しく、わかりやすく教えるためのアイデアを出し合い、考える。</p> <p>第11回：《生徒を動かす授業―「言葉」の授業 実践》 前回の授業の続き。模擬授業。</p> <p>第12回：《生徒を動かす授業―「言葉」の授業 実践と展開》 前回の授業の続きと古典文法への応用。</p> <p>第13回：《生徒を動かす授業―「言葉」の授業 実践》 前回の授業の続き。模擬授業。</p> <p>第14回：《生徒を動かす授業―韻文の授業 課題発見》 韻文を取り上げ、基礎知識の確認と鑑賞の授業を考える。</p> <p>第15回：《今までの授業を振り返って》 今までの授業を振り返る。次年度の国語教育法Ⅲの授業の予告。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と演習
評価方法 Evaluation	レポート30%、小テスト20%、演習・課題の内容30%、平常点20%。但し、欠席及び遅刻した場合は減点する。
履修上の注意 Requirements and policy	教員志望者として、全て出席であることが望ましい。

教科書 Textbook (s)	プリントを配布します。
参考書 Reference (s)	学習指導要領
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法III						
担当教員	高田 実千代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>中高国語教員としての基礎知識の養成と教授表の研究 主眼となるテーマは、生徒が動く授業作りを中心とした教授法の実践。前年度履修の「国語科教育法Ⅱ」の内容を踏まえて、視点を変えた「生徒が動く授業作り」を、教科書所収の作品を実際に使い、教材内容を理解すると共に、実際の授業にどう取り入れるかの実践・演習を行う。さらに「総合単元授業」について考える。また、国語科教員として必要な知識の確認・復習を行う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：《授業のオリエンテーションと板書の工夫》 国語科教育法Ⅱで学習した内容の確認と、授業の説明。さらに、板書の工夫とについて実践例をあげながら考える。</p> <p>第2回：《演習Ⅰ：韻文の授業から視点を変えた表現指導》 韻文の知識の確認と解釈は勿論、どのような表現活動に結びつけるか。多くの発想から。視点を変えた表現指導を考察する。</p> <p>第3回：《演習Ⅰの模擬授業》 前回考察した韻文を扱った内容の模擬授業。</p> <p>第4回：《演習Ⅱ：小説・語彙～導入～》 中一の最初に扱う小説を取り上げ、授業作りの導入とする。</p> <p>第5回：《演習Ⅱの模擬授業》 前回考察した小説・語彙に関する内容の模擬授業</p> <p>第6回：《演習Ⅲ：説明文～論理力をつける授業と調べ学習への応用～》 説明文の教材を使い、論理力をつけるためにはどうすればいいか、どのような調べ学習にむすびつけるかを考える。</p> <p>第7回：《演習Ⅲの模擬授業》 前回考察した説明文を使った内容の模擬授業をする。</p> <p>第8回：《演習Ⅳ：長編小説から考える》 ほとんどの許可書に所収されている長編小説を扱う。多くの実践報告例を振り返ると共に、新しい発想からどのように扱っていくかを考察してゆく。</p> <p>第9回：《演習Ⅳの模擬授業》 前回暑かった長編小説の模擬授業をする。</p> <p>第10回：《総合単元授業を知る》 教科書の作品にとらわれ、ある一定のテーマをもとに教材開発し、新しい授業を組み立てていく「総合単元授業」。その実践報告をみてゆく。</p> <p>第11回：《総合単元授業を作る～意義把握～》 意見を出し合い、【私たちの考える「総合単元授業」作り】を行う。</p> <p>第12回：《総合単元授業を作る～実践①～》 前回の「総合単元授業」作りの続き。教材開発を中心に。</p> <p>第13回：《総合単元授業を作る～実践②～》 前回の「総合単元授業」作りの続き。授業内容を中心に。</p> <p>第14回：《総合単元授業を作る～まとめ～》 「総合単元授業」のまとめ・仕上げとして、冊子にする。</p> <p>第15回：《国語教育のあり方について》 今までの講義を通して、今後の国語教育のあり方について考える。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心
評価方法 Evaluation	小テスト30%、演習・課題の内容60%、平常点10%。但し、欠席及び遅刻をした場合は、減点する。

履修上の注意 Requirements and policy	教員志望者として、すべて出席であることが望ましい。
教科書 Textbook(s)	なし。プリント教材を使用。但し、知識確認用に市販の問題集を使用する。(最初の授業で問題集は配布)
参考書 Reference(s)	学習指導要領
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法						
担当教員	釣 年子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜4	配当学年	3～4	単位数	4.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>高等学校芸術科書道の教育内容を理解し、その実践のための具体的な学習指導方法の習得。</p> <p>高校における芸術の授業をどう考え、実践するか。実技としての特性を踏まえた授業展開、より具体的な学習指導内容、方法、技術を考えてゆきます。国語科書写との関連をはかります。学習指導要領に基づき指導計画の立案や指導方法について考察します。模擬授業を通じて実践力を高めることをめざします。書道実技演習は毎時間行い、実技力、表現力や鑑賞力の向上を目指します。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1) ガイダンス（書道の先生になるために）            －教育理念をもとう            －塾と学校教育</p> <p>2) 書写と書道（1）－書道教育の歴史        3) 書写と書道（2）－筆順・反復と模写        4) 書写と書道（3）－芸術と実用        5) 教育法規・学習指導計画・教科書の扱い方        6) 学習指導要領の検討－書道ⅠⅡⅢ（1）        7) 学習指導要領の検討－書道ⅠⅡⅢ（2）        8) 書写書道専門用語を知ろう        9) 実技授業とは？高校芸術科書道を体験しよう（兼模擬授業）（1）名前を書こう（楷・行・草）        10) 実技授業とは？高校芸術科書道を体験しよう（兼模擬授業）（2）色紙に書こう{かな・草書}        11) 実技授業とは？高校芸術科書道を体験しよう（兼模擬授業）（3）隷書を書いてみよう        12) 臨書について（1）臨と模        13) 臨書について（2）臨書の方法・形態・意義        14) 臨書について（3）古典臨書        15) 臨書について（4）古典臨書</p> <p>-----</p> <p>1) 表現について（1）－実技力の深化向上        2) 表現について（2）－臨書と創作指導のあり方（1）        3) 表現について（3）－臨書と創作指導のあり方（2）        4) 表現について（4）－漢字仮名交じりの書と古典        5) 学習指導の要素・方法・形態・技術（1）－指導目標・基準・過程・形態・技術        6) 学習指導の要素・方法・形態・技術（2）－示範・批正の学習指導        7) 学習指導の要素・方法・形態・技術（3）－知識・理解の学習指導・評価の実際        8) 評価について・鑑賞指導法の研究と視聴覚教材の検討        9) 学習指導計画の立案（1）一年間・単元        10) 学習指導計画の立案（2）－毎時        11) 各自の学習指導案の検討（1）        12) 各自の学習指導案の検討（2）        13) 生徒による模擬授業（1）        14) 生徒による模擬授業（2）        15) 模擬授業の検討－授業のまとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と実技を平行して行います。
評価方法 Evaluation	出席、授業態度、提出作品、レポートなどで判断します。
履修上の注意 Requirements and policy	毎時間、書道用具及び筆記具、ノート持参のこと。

教科書 Textbook(s)	教科書は高等学校学習指導要領解説芸術編（文科省） ・「書 I」（教育図書）野口白汀 他
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	生徒指導論						
担当教員	加藤 巡一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ「子ども達が心身ともに健やかに育つために」</p> <p>生徒指導は、全ての児童・生徒のよりよき人格の発達を目指し、社会生活や職業生活の中で、人間としての生き方についての自覚を深めるものである。このことを踏まえ、生徒指導の意義と課題、生徒理解の実際、家庭や地域との連携、特に不登校、いじめ等について考察する。生徒理解の手法やカウンセリングマインド等についても体験的に修得する。また、事例研究として様々な問題場面を提示し、学校組織として最善の対応を研究する。さらに児童・生徒の将来を見通した生き方の指導として進路指導を位置づけ、先輩や事業主の話を聞くチャンスをつくることや、在校生、卒業生、教師、父母、地域住民との情報交換や交流の場を学校が提供することで、自らの進路を責任をもって選ぶことができるようになる指導を探求する。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 生徒指導の意義</p> <p>第2回 生徒指導の課題と実践</p> <p>第3回 生徒指導の基礎理論（適応の概念）</p> <p>第4回 生徒指導の基礎理論（適応の過程）</p> <p>第5回 子どもの自我形成</p> <p>第6回 生徒理解（心理検査）</p> <p>第7回 生徒理解（まとめ）</p> <p>第8回 非社会的問題行動</p> <p>第9回 不登校への対応</p> <p>第10回 反社会的問題行動</p> <p>第11回 いじめの防止と解決</p> <p>第12回 進路指導の意義と実践</p> <p>第13回 事例研究</p> <p>第14回 生徒指導のまとめ</p> <p>第15回 質疑応答と試験</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type							
評価方法 Evaluation	定期試験を主資料（80%）として、個人発表やグループ討議の成果（10%）と授業への取り組みの姿勢（80%）を加味する						
履修上の注意 Requirements and policy	三分の一以上の欠席で履修を認めない						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	教職課程科目						
科目名	特別活動の研究						
担当教員	加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ「生徒にとって学校が楽しくなる工夫」</p> <p>近年、児童・生徒が対人関係に悩んだり集団生活に溶け込めないという状況が多く見られる。また、異年齢集団や地域との交流に関して、地域を持つ教育力は極端に弱くなっている。これらの課題に深く関わる特別活動は、望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え自己実現を図っていける人間を育成するという重要な目的をもっている。そのためには、学級（ホームルーム）活動、生徒会活動及び学校行事等をできるだけ児童・生徒側に企画実践を任せて、教師は距離をおいてそれを見守る指導により、自立した集団と個の育成を図ることが重要である。学生諸君はかつての経験呼び起こしながら、どうすればより有効な指導になりうるのか体験的に研究する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 特別活動の改訂の経緯と趣旨</p> <p>第2回 特別活動の目標と意義</p> <p>第3回 特別活動の内容相互の関連</p> <p>第4回 学校行事のあり方と実践</p> <p>第5回 グループ別研究（学校行事について）</p> <p>第6回 発表と検討（1）</p> <p>第7回 発表と検討（2）</p> <p>第8回 生徒会活動のあり方と実践</p> <p>第9回 個人研究（HRの年間計画）</p> <p>第10回 学級（HR）活動のあり方と実践</p> <p>第11回 グループ別研究（学級新聞の活用）</p> <p>第12回 発表と検討（1）</p> <p>第13回 発表と検討（2）</p> <p>第14回 特別活動のまとめ</p> <p>第15回 質疑応答と試験</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義、グループ討議・発表
評価方法 Evaluation	定期試験を主資料（80%）として、研究発表の成果（10%）や授業への取り組みの姿勢（10%）を加味する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三観点で行なう
履修上の注意 Requirements and policy	三分の一以上の欠席で履修を認めない
教科書 Textbook(s)	<p>高等学校学習指導要領解説 特別活動編 著 文部科学省（東山書房）</p> <p>中学校学習指導要領解説 特別活動編 著 文部科学省（ぎょうせい）</p>
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	道徳教育の研究						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「道徳教育の授業を倫理学から組み立てる」というテーマのもとで、第一の目的は学校教育における道徳の役割とその指導法を理解させることである。第二の目的は道徳教育のあり方を倫理学的な視点から反省させることである。第三の目的は学習指導要領を参考にしながら学生の授業の実践力を養成することである。</p> <p>具体的な概要としては、第一に学習指導要領における道徳の位置づけについて説明する。第二に道徳教育の実践例を紹介するとともに、その倫理学的な背景を解説する。第三に人間関係や自然や社会の存在意義をめぐって学生に指導案の作成、模擬授業の実践、授業への相互評価を行わせる。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング</p> <p>第2回 体験した道徳教育を振り返る：グループ発表と相互コメント</p> <p>第3回 学習指導要領にみる道徳(1)：学校教育における役割</p> <p>第4回 学習指導要領にみる道徳(2)：他の教科教育との関係</p> <p>第5回 道徳の教材研究(1)：自己と他者に関する内容</p> <p>第6回 道徳の教材研究(2)：自然と環境に関する内容</p> <p>第7回 道徳の教材研究(3)：集団と社会に関する内容</p> <p>第8回 倫理学から見た道徳教育(1)：徳目主義・価値主義・発達主義</p> <p>第9回 倫理学から見た道徳教育(2)：共同体主義と自由主義</p> <p>第10回 「道徳の時間」の指導案作り(1)：全体計画との関連づけ</p> <p>第11回 「道徳の時間」の指導案作り(2)：個別授業の組み立て方</p> <p>第12回 模擬授業の実践(1)：自己と他者について</p> <p>第13回 模擬授業の実践(2)：自然と環境について</p> <p>第14回 模擬授業の実践(3)：集団と社会について</p> <p>第15回 レポートの返却と成績評価の還元</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	参加者は多くないので、前半は講義を基本にしなが、聴き合いやディスカッションを取り入れます。また後半は模擬授業が中心となります。						
評価方法 Evaluation	平常点30点（授業参加度、コメントカード、グループ発表など） 模擬授業20点（学生による相互評価を含む） 学期末レポート50点（道徳教育の知識を踏まえての指導案作りと考察）						
履修上の注意 Requirements and policy	教科書は授業でも使いますが各自でも読んでください。また必要な資料は配付して参考文献も紹介します。参加者が自分の物語をテキストに仕立ててほしいですね。						
教科書 Textbook(s)	井ノ口淳三『道徳教育』学文社、2007年。 ISBN:978-4-7620-7-1661-5						
参考書 Reference(s)	『中学校学習指導要領解説 道徳編』						
備考 Remarks							

科目区分	教職課程科目						
科目名	被服繊維学						
担当教員	古濱 裕樹						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「繊維の知識」 被服素材の主たるものは繊維である。繊維は天然・合成問わず数多くの種類があり、各繊維の特徴を活かしたアパレルが企画され、世に出ている。ここでは、あまたの繊維を順に追って、概略や特徴、化学・物理的性質、そして取扱いや最新の技術動向まで触れ、詳しく解説する。また、20世紀の後半に誕生したスーパー繊維や新合繊、さらにそれを超えた快適性や審美性などを有する機能性繊維についても、最新の動向を踏まえて紹介する。 到達目標：専門的で一見難しそうなことでも追究すれば楽しいものになる。それを感じてほしい。また、繊維を通して、生産者と消費者の架け橋となれるスペシャリストになってほしい。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：繊維概論と化学繊維開発史 第2回：天然繊維－植物繊維－ ① 綿 第3回：天然繊維－植物繊維－ ② 麻、その他の植物繊維 第4回：天然繊維－動物繊維－ ① 絹 第5回：天然繊維－動物繊維－ ② 羊毛、獣毛 第6回：化学繊維－再生繊維・半合成繊維－ レーヨン、キュプラ、アセテート 第7回：化学繊維－合成繊維－ ① ナイロン、アクリル 第8回：化学繊維－合成繊維－ ② ポリエステル 第9回：化学繊維－合成繊維－ ③ ポリウレタン、ビニロン、他 第10回：化学繊維－新しい繊維－ リヨセル、ポリ乳酸繊維、他 第11回：化学繊維－無機繊維、スーパー繊維－ 炭素繊維、アラミド繊維、PBO繊維、他 第12回：新感性繊維－極細繊維、異形断面繊維、他 第13回：フロンティア繊維－超親水性繊維、インテリジェントファイバー、他 第14回：繊維製品のリサイクル 第15回：総括と試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点(20～30%)、小テスト(25～35%)、試験(40～50%) 遅刻、欠席は平常点より減点。3分の1以上の欠席で平常点はほぼなくなる。
履修上の注意 Requirements and policy	「テキスト」白地図のようなテキストを配るので、各自が中身を充実させ、オリジナルのテキストを創り上げてほしい。完成したテキストはあなたの財産となるはずである。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	適宜紹介する。
備考 Remarks	